

夏期 テキスト

この本の特徴

この本は、公立中高一貫校をめざす小学5年生のための夏期講習用教材です。5年生の夏休みまでに学習する重要基礎事項を身につけながら、「思考力・分析力・表現力」をみがいていくことを目的としています。

この本の使い方

例題・要点

各回で基礎固めをするための内容になっています。社会では要点で学習した内容を「基本問題」でチェックすることができます。一つ一つ確実に身につけていきましょう。

演習問題

例題・要点で学習した内容をふまえた、より実践的な問題になっています。さらに、社会ではA・Bと二つの難易度の問題を用意しましたので、理解度に応じて取り組むようにしてください。

作文・言語事項

国語では、記述力・読解力を高めるために、作文や知識事項のトレーニングをするコーナーを用意しました。

もくじ

第1回 説明文・論説文(1)／日本の国土(気候) 説明文・論説文(1)／作文の書き方(1) 日本の国土(気候)……………	13 2
第2回 説明文・論説文(2)／資料を読んでその特徴を書く 説明文・論説文(2)／修飾語・文の基本型 資料を読んでその特徴を書く……………	25 14
第3回 説明文・論説文(3)／日本の農業 説明文・論説文(3)／作文の書き方(2) 日本の農業……………	37 26
第4回 説明文・論説文(4)／各農業に適した地形・気候 説明文・論説文(4)／擬声語・擬態語 各農業に適した地形・気候……………	49 38
第5回 物語文(1)／日本の水産業 物語文(1)／作文(1) 日本の水産業……………	61 50
第6回 物語文(2)／資料や会話を読んでその内容を整理する 物語文(2)／類義語・対義語 資料や会話を読んでその内容を整理する……………	73 62
第7回 随筆文(1)／日本の食料生産 随筆文(1)／作文(2) 日本の食料生産……………	85 74
第8回 随筆文(2)／食料生産量のうつつり変わり 随筆文(2)／故事成語・四字熟語 食料生産量のうつつり変わり……………	97 86
総合問題(1)(2)……………	98
漢字問題……………	114



説明文・論説文(4) / 擬声語・擬態語

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

□(1) 本文を、次の観点から大きく三つに分けるとすると、第二の部分はどこからどこまでになりますか。第二の部分の最初と最後の四字を文章中から書きぬきましょう。(句読点も字数に含みます。)

【第一の部分】筆者の考えを述べている。

【第二の部分】第一の部分に関連する筆者の見聞(見たり聞いたたりしたこと)を述べている。

【第三の部分】第二の部分を受けて筆者の考えをまとめている。

□(2) ……線A～Cについて、「事実」ならばA、「意見」ならばイを書きましょう。

A	B	C
---	---	---

□(3) ———線①「こどもの、ホラ話、若いときのフィクションが自然であるように考えられる」とありますが、筆者がこう考える理由を次のようにまとめました。□□にあてはまる言葉を、文章中の言葉を使って、それぞれ二十字以内で書きましょう。

という事実に加え、ウソの中に存在する

と考えるから。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(外山滋比古「伝達の整理学」より)

(注) 原罪…人間が生まれながらに持っている罪。
 フィクション…想像によって作られた話。

ポイント

●事実と意見を区別しながら読み進めましょう。

・意見は主語や文末表現から判断することができます。「私は」と思う(考える)。「〜するべきだ」「〜ではないか。」など。

●意見に注目して読みましょう。

・文章の中では、事実よりも意見の内容を中心にとらえましょう。

40 35 30 25

□(4) — 線②「一度だけことばづかいについて教えられたことがある、と言った」とありますが、Tさんが教えられたことがまとめられている一文を、文章中から探して、最初の四字を書きぬきましょう。

□(5) — 線③「少年には、わけがわからない」とありますが、どのようなことにとまどったのですか。「……こと。」につながるように、文章中の言葉を使って、二十字以内で書きましょう。

□(6) この文章の筆者の考えを次のようにまとめました。□□にあてはまる言葉を、文章中から十六字で書きぬきましょう。

ウソは大切にすべきだ。

□(7) この文章の内容としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

- ア こどもはウソをしかかれても、心が傷ついたりはいらない。
- イ すぐれた文章を書くためにはウソをついてはいけない。
- ウ 相手の気持ちや立場を考えてウソをつくことも必要だ。
- エ ウソをつく、なくともいいトラブルがおきてしまう。

演習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

50 45 40 35 30 25 40

(注) メルトダウン…原子炉げんしろうの事故の一種。

(池内いけうち了「なぜ科学を学ぶのか」より)

□(1) — 線① 「2011年3月11日の東日本大震災」によって、どのようなことが明らかになりましたか。「技術」という言葉を使って五十文字以内で書きましょう。

□(2) — 線② 「原発を……いいのでしょうか」とありますが、筆者は多くの人々がどのようなことを反省するべきだと述べていますか。文章中の言葉を使って三十文字以内で書きましょう。

□(3) この文章の内容としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

- ア 学校は、科学の基礎知識をもっと教えるべきだ。
- イ 日本人は、脱原発を主張できるようにするべきだ。
- ウ 私たちは、科学には限界があることを知るべきだ。
- エ 現代社会は、科学の負の側面を受け入れるべきだ。

[]

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

50 45 40 35 30

(注) 年中行事…毎年決まった時期に行われる行事。
 (湯川秀樹「科学を生きる」より)

□(1) — 線①「科学の影響力というものは、…限られているのではない」とありますが、筆者が述べている文明の利器に関すること以外の科学の影響を次のようにまとめました。□にあてはまる言葉を、文章中の言葉を使って五十字以内で書きましよう。人間の社会生活というものが、科学的な知識と照し合せてみて、

□(2) — 線②「これ」が指し示す内容を、「…こと。」につながるように文章中から十四字で探し、最初と最後の四字を書きぬきましよう。

□(3) — 線③「昔からある…ものではない」とありますが、京都の年中行事以外で、筆者が残しておいてもよいと考えていることの例を次のようにまとめました。□にあてはまる言葉を、文章中の言葉を使って三十字以内で書きましよう。

2 長野県の野菜づくりについて調べ学習を行いました。次の資料を見て、あとの問いに答えましょう。

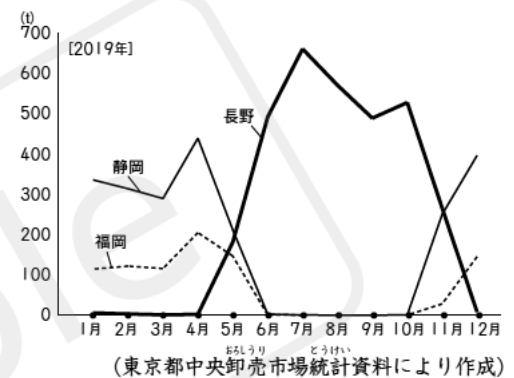
長野県の南牧村にあるJR野辺山駅は、日本で最も標高が高い場所にある駅として知られています。この駅の周辺には、ハケ岳のふもとにあたる野辺山原という高原が広がっています。この野辺山原では、Aレタスやキャベツ、セロリなどの高原野菜がつくられています。野辺山原では、これらの高原野菜を出荷するときにもくふうをしています。このくふうについて、野辺山原がある南牧村のホームページでは、次のように説明しています。

「じゅうぶんに育ったレタスはつぎつぎにしょうかくされて畑で箱につめられ、野菜集荷場に運ばれます。そこで品質をきびしく検査し、B低温に保たれ、輸送中にいたまないように専用の保冷トラックで全国各地に運ばれます。」

(1) 下線部Aについて、次の問いに答えなさい。

□① 右の資料1は東京都の市場への長野県・静岡県・福岡県のセロリの出荷量を月ごとに表したものです。野辺山原がある長野県の出荷には、どのような特徴が見られますか。かんたんに書きなさい。

資料1 東京都の市場へのセロリの月別出荷量



- ② ①のような出荷のためにおそづくりをする栽培方法を何といいますか。 ()
- ③ 長野県で②のような農業が行われる理由について、次の資料2をもとにして、かんたんに書きなさい。

資料2 東京都の市場でのセロリの月別平均価格 (1kg) (2019年)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
208円	203円	220円	286円	299円	300円	266円	260円	355円	257円	255円	225円

(東京都中央卸売市場統計資料により作成)

□(2) 下線部Bのように、レタスを保存する温度が低くなるように管理している理由を、右の文章を参考にして、かんたんに書きなさい。

◎野菜の豆知識

レタスはとてもいたみやすい野菜ですが、0℃～5℃の温度で保存すると休眠状態になって、いたむ速度がおそくなります。このため、低温で保存すると、レタスの鮮度が守られることになるのです。

演習問題

1 じんさんとさなさんが、給食の時間に話をしています。次の会話文を読んで、あとの問いに答えましょう。

さな：「じんさん、今日の給食のパンはちょっと変わっているね。」

じん：「給食の献立表には、お米でつくられたパンって書いてあったよ。米粉パンというんだって。」

さな：「小麦粉からつくられるパンとはちがうんだね。でも、なぜお米を原料にしたのかな。」

じん：「ぼくが考えるには、①ためだよ。」

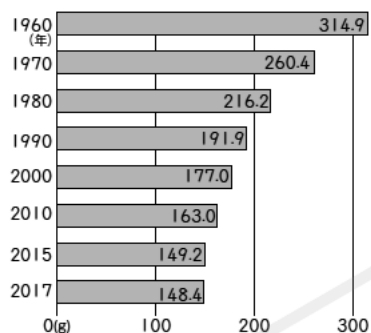
さな：「なるほど、生産した米がむだにならないようにするためね。米粉パンに使うことで米の消費量が増えると、②ことにつながると思うわ。」

じん：「今、思い出したんだけど、食べてもおいしくない米を生産している農家もあるらしいよ。」

さな：「わたしも聞いたことがあるわ。家畜のえさに使われる飼料用のお米のことだね。」

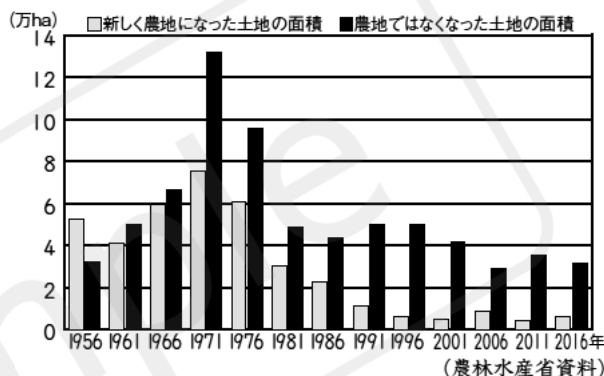
じん：「さなさんも知っていたんだ。よし、もう少し飼料用のお米について調べてみよう。」

資料1 日本人1人1日あたり米の消費量



(2019年版「日本のすがた」)

資料2 日本の農地面積のうつり変わり



(農林水産省資料)

□(1) 上の資料1を見て、会話文中の①にあてはまる内容を考えて書きなさい。

()

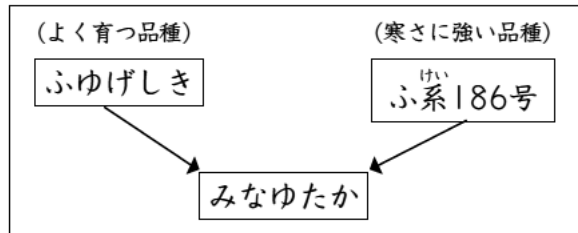
□(2) 上の資料2を見て、会話文中の②にあてはまる内容を考えて書きなさい。

()

□(3) 会話文中の下線部について、じんさんは右下の資料3を見つけて、青森県を中心に生産されている「みなゆたか」という飼料用米の特色を次のようにまとめました。東北地方に多い自然災害の名前を使って、文中の③にあてはまる内容を、資料3 飼料用米「みなゆたか」

かんたんに書きなさい。

品種改良によってつくられた「みなゆたか」は、③米になっています。

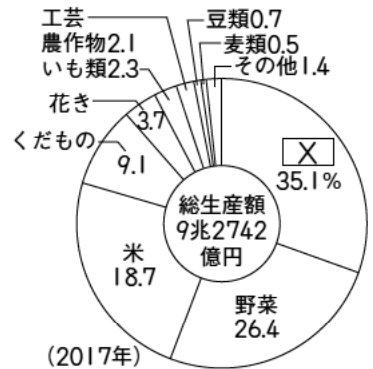


()

2 日本の各地域の農業について、次の問いに答えましょう。

□(1) 右の資料1は、日本の農業総生産額の内訳を示したグラフです。グラフ中の「X」は、北海道や九州地方南部で特にさかんな農業です。あてはまる農業名を書きなさい。

資料1 日本の農業総生産額の内訳



(2017年) (2019年版「日本のすがた」)

□(2) 資料1の「X」に関連して、北海道で行われている酪農について、あとの語群にある語をすべて使って、かんたんに説明しなさい。

語群

生乳*

乳製品**

乳用牛

牧草

*生乳は、乳用牛から直接しぼった乳のことで。 **バターやチーズ、ヨーグルトなどのことで。

□(3) 次の文章は、九州地方南部で資料1の「X」がさかんな理由を述べたものです。(Y)にあてはまる語を書きなさい。

九州地方南部では、火山灰土の(Y)が分厚く積もって台地を形成しています。この火山灰土は水持ちが悪いため、多くの水を必要とする稲作に適しません。そのため、この地域では畑作や資料1の「X」がさかんになっています。

□(4) 野菜の生産がさかんな地域は、それぞれの気候や土の性質などの条件に合わせた野菜づくりをしています。千葉県や茨城県など、大消費地の近くで野菜づくりがさかんなのはなぜですか。「新鮮」という語を用いて、かんたんに書きなさい。

□(5) 右の資料2は、青森県でりんご農家を営んでいるおじさんの手伝いに行ったふじこさんの日記の一部です。資料2をよく読んで、下線部の目的のために「葉つみ」や「玉回し」の作業をする理由を、かんたんに書きなさい。

資料2 ふじこさんの日記

8月〇〇日

この辺では、8月の終わりにになると気温が下がり、夜は寒く感じます。おじさんは「すずしくなると、よく日光に当たったりんごは、皮にふくまれるアントシアニンという色素が増えて赤くなってくるんだよ」と教えてくれました。

8月〇△日

今日は「葉つみ」と「玉回し」の作業を手伝いました。「葉つみ」はりんごの周りにある葉をつみとっていくことです。「玉回し」はまんべんなく日光を当てるために枝についたままのりんごを回転させることです。どうして、このような作業をするのかとおじさんに聞くと、「ここで生産したりんごを、お客さんが買いたいと思ってもらえるようにするためだよ」と教えてくれました。

基本問題

1 日本の農家や農場に関する資料について、次の問いに答えましょう。

□(1) 資料1の□には、農業だけで収入を得ている農家を表す語があてはまります。この語を何といますか。()

□(2) 資料1から読み取ったこととして、あやまっているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。()

ア 1960年から2015年にかけて、農家の総数は半分以下になった。

イ 1990年から2010年の間、常に販売農家の数が自給的農家の数よりも多かった。

ウ 2000年の第1種兼業農家の数は、自給的農家の数よりも少なかった。

エ 2015年の第2種兼業農家の数は、100万戸よりも多かった。

(3) 資料2について、次の会話を読んで、あとの問いに答えましょう。

生徒：「先生、資料2は何を表した図ですか？」

先生：「これはほ場整備といって、農場を改良したようすを表しています。」

生徒：「では、資料2は田んぼでほ場整備を行う前と行った後をえがいたものですか？」

先生：「その通りです。A田んぼの形が変わったのがわかるでしょう。」

生徒：「わかります。しかし、田んぼの形を変えることにどのような意味があるのでしょうか？」

先生：「もう一度、資料2をよくごらんください。」

田んぼで働く人のようすに注意すれば、B農家にとってのほ場整備の利点がわかりますよ。」

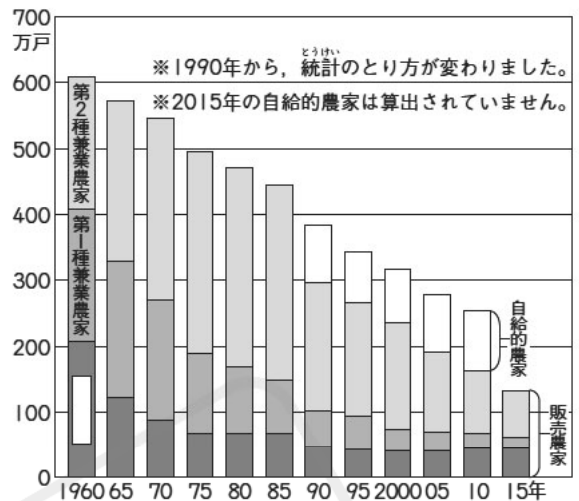
□① 下線部Aについて、ほ場整備の前後で田んぼの形がどのように変わったかを説明しなさい。

()

□② 下線部Bについて、資料2をもとにして、ほ場整備が農家にどのような利点をもたらしたかを書きなさい。

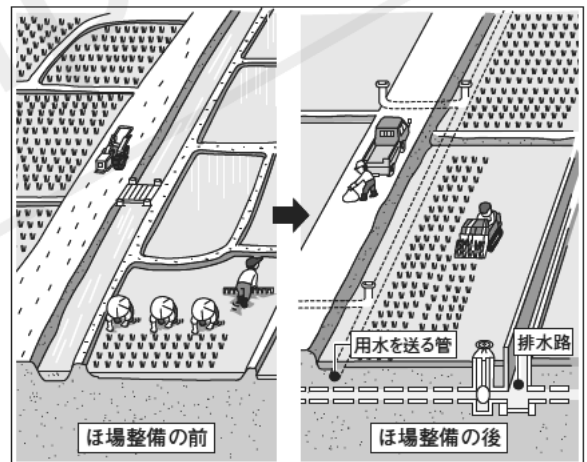
()

資料1 農家の数の変化



※1990年から、統計のとり方が変わりました。
 ※2015年の自給的農家は算出されていません。
 ※販売農家とは、売ることを目的に農産物をつくっている農家で、□と兼業農家に分けられます。兼業農家のなかでも、農業の収入がほかの収入よりも多い農家を第1種兼業農家、少ない農家を第2種兼業農家といいます。(2015年 農林水産省資料)

資料2 ほ場整備の前と後



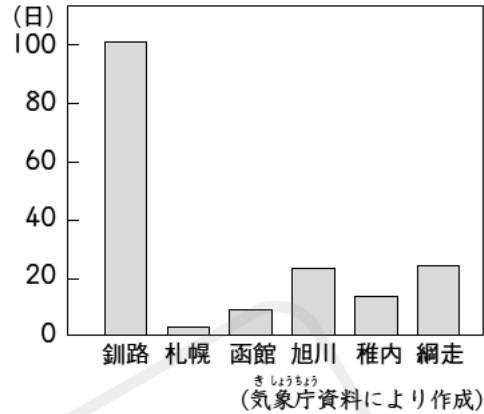
例題 2

あきらさんとかいとさんは、米づくりの条件^{じょうけん}について話し合っています。次の会話を読んで、あとの問いに答えましょう。

資料1 北海道の地図



資料2 一年間にきりが出る日数



あきら：「日本は米が主食になっているから、どの都道府県でも米づくりが行われているね。」

かいと：「でも、北海道の根釧^{こんせん}台地では米づくりがあまり行われていないらしいよ。」

あきら：「根釧^{らくのう}台地という、酪農^{ちいき}がさかんな地域だと習ったね。北海道の東部にある釧路^{くしろ}や根室^{ねむろ}の周辺に広がっているんだっただけかな。」

かいと：「その通りだね。根釧^{こんせん}台地は気候の条件が米づくりに向いていない地域だから、かわりに酪農^{ちいき}がさかんに行われるようになったんだ。」

あきら：「なるほどね。米づくりに向いていない地域もあるけれど、だからこそ日本では多様な農業が行われるようになったと考えることもできるね。」

_____線部とありますが、資料2を参考にして、根釧^{こんせん}台地が米づくりに向いていない理由を、かんたんに書きましょう。

()

① 考え方

STEP ● 1 米づくりに必要な条件として、栄養分のある土、じゅうぶんな日照^① (), 豊かな水の3つがあげられます。

STEP ● 2 稲の生育には、適度^{てきど}の雨がかせませんが、それとともに晴れている日にできるだけ多くの^② ()を浴びることも必要です。

STEP ● 3 きりが出るとあたり一面が見えにくくなってしまいます。晴れている日であっても、きりがさえぎってしまうので、田んぼのある^③ ()に^②がとどかなくなります。



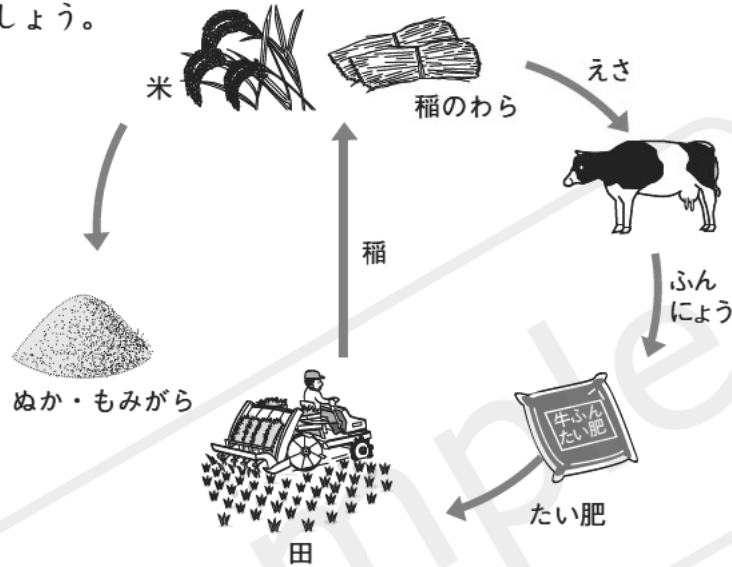
各農業に適した地形・気候

テーマ

日本では、地域によって地形や気候などがことなります。このため、それぞれの地形や気候などに合わせた農業が行われています。特色ある地域の農業について学びます。

例題 1

かずきさんとゆかりさんは、安全な米づくりについて話し合っています。次の会話を読んで、あとの問いに答えましょう。



かずき：「安全なお米として、有機米というのがよくいわれるようになったね。」

ゆかり：「化学肥料を使わない、無農薬の有機農業でつくったお米のことね。」

かずき：「化学肥料や農薬を使うと何がよくないのだろう。」

ゆかり：「化学肥料を使いすぎると、土がだんだんやせていき、おいしいお米がつかれなくなるのよ。それに農薬を使うと、人間や自然に害をあたえることになるの。」

かずき：「だったら、どうして化学肥料や農薬が使われるのだろう。」

ゆかり：「機械化とともに、化学肥料や農薬が便利だから使われるのだと思うわ。」

線部とありますが、これに対して有機農業の不便なところをかんたんに書きましょう。

① 考え方

STEP ● 1 そのまま使える化学肥料とちがい、(①)をつくるのは手間がかかると考えられます。

STEP ● 2 農薬を使わないと(②)や害虫から稲を守ることができません。

STEP ● 3 化学肥料を使わず、無農薬で育てるのは、大きな(③)になることがわかります。